

すてきな花のまちづくり

平成20年8月21日

北区まちづくり参加・入門講座 基調講演から

(恵庭市) 恵み野花づくり愛好会事務局長 うちくら 内倉 まゆみ 真裕美

皆さんこんばんは、内倉真裕美と申します。私は、恵庭市の恵み野というまちに1988年から住んでいます。今日は、私がなぜ「花のまちづくり」をするようになったかというお話をします。きっかけは、子どもたちのためでした。「あなたの生まれた所、育った所はどんなまちなの」と聞かれたときに答えられるような、そんなまちが欲しかったのです。そこで私は、子どもたちが誇りに思えるようなふるさとを残すために、今住んでいる私たちが動かなければ、何も変わらないだろうという思いから始めたのが「花のまちづくり」です。

恵み野が花のまちと言われているのは、個人のお庭のガーデニングが全国的に有名になったからです。ガーデニングが有名になったのは、フラワーガーデニングコンテストを毎年開催していくことによって、個人のお庭が徐々に素敵になってきたからなのです。個人のお庭が素敵になると、まち並みもきれいになってきます。まち並みと言っても、個人のお庭なので、道路などが整備されるということにはなりません。そこで、商店街のまち並みがとても気になるようになってきました。そこをきれいにしたほうがやっぱりいいよね、全体的にきれいになるよねということで進めてきたのが、「花のまちづくり」なのです。平成3年から続けていますので、かなりのものになるかと思えます。

私が事務局を努めさせていただいている「恵み野花づくり愛好会」は、1990年に発足しました。その翌年からフラワーガーデニングコンテストを実施しています。このガーデニングコンテストは、

当初は勝手に個人のお庭の写真を撮って回り、勝手に審査するという形態でした。しかし、個人情報保護法が施行されてからは、写真を撮る所には事前に許可をいただき、審査するお宅には、ご理解をいただくような文書をポストに入れてあります。そして、皆さんのお宅に審査にお伺いするという形で行っています。このように、恵み野のフラワーガーデニングコンテストの特徴は、公募方式ではないことです。



北区まちづくり参加・入門講座での基調講演

今年は、恵み野地区の約4,600軒をすべて、一人で回ったので準備に2週間ほどかかりました。そして、写真を撮る許可をいただいて、地図に場所を落とし込んでいきました。審査の日は、午前9時にスタートして午後5時までかかりました。すてきなお庭をランク付けするということではなく、頑張っているところを応援しようという意味合いで賞状を出しています。だから、当然個人宅だけではなくて、通りのきれいな場所、あとは企業とか団体できれいにしている場所にも表彰状をお渡ししています。

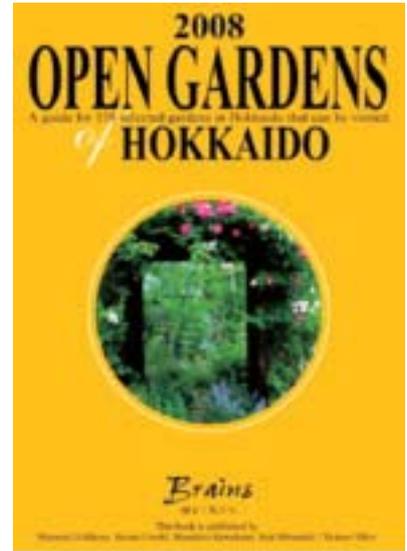
このコンテストは、実を申しますと審査員の方々が、18年間ずっとスポンサーになってくれています。審査員の皆さんには1万円を持ち寄って参加していただき、景品までその中から買わせていただくという方法で行っています。本当に私たちが好きでやっている活動で、行政は絡んでいません。そういう活動がずっと続いてきたからこそ、ガーデニングがしだいに地域に広まってきたと思います。

まち全体がだんだんお花できれいになると、他の組織からも表彰されるようになり、全国からお客さまが来るようになってきました。それで、これは町内会の方々に、活動の取り組み内容をきちんとお話をしていかなければいけないなということで、1997年に「美しい恵み野花のまちづくり推進協議会」という組織をつくりました。この組織には、恵み野にある東西南北の四つの町内会、むつみ会という老人会、それに商店会や企業、小中学校、JRの駅も加入しています。こうして、活動の主旨に賛同してくれる団体が協力して、花でまちをきれいにしよう、景観を考えていこうという「美しい恵み野花のまちづくり推進協議会」が誕生したのです。

活動費は、各団体からの年会費のほかに、商店街の小さな通りの植樹に市から補助金を頂いている場所があります。それと、恵み野花基金といって、花マップの広告料収入とか廃品回収などを行い、いろいろな形で小銭を貯めて活動を続けています。

次に、問題点について言いますと、恵み野のまちは一時期、本当に大変だったことがあります。生活道路に何でこんなにバスが入ってくるのか理由が分からないとか、何か変な人たちが歩いているとか、一体どうなっているのだという苦情も来ていました。だから、自分たちの住んでいるまちというのが、こういうまちだということを、皆さんに理解していただくまでには、それ相応の時間がかかりました。

その間、ガーデニングをやっている方々がちょっとノイローゼ気味になったりしたときもありました。それで、この問題を何とかしなければいけないと思ひまして作成したのが、「ブレインズ種まく私たち」というオープンガーデンの本です。これは、全道のすてきなお庭を紹介する本ですが、これを作ることによって、恵み野の他にもオープンガーデンや、すてきなお庭がいっぱいあることを紹介したら、恵み野だけじゃなく、いろいろな所に皆が行けるようになってきました。



「ブレインズ 種まく私たち」の表紙

そうすると、恵み野に住んでいる人たちも少し気が楽になってきたのです。今までは、恵み野ばかりに人が集まっていたのが、いろいろな所に分散されるようになりました。しかも、発祥の地は恵み野なのということが公になると、自分たちのふるさと意識も高まり、自分たちがパイオニアだということも言えるようになりました。これが、私が本を作ったきっかけです。

まちづくりを行っていくと、さまざまな問題に対処するために、いろいろと手を打っていく必要が生じてきます。それによって、何かしら私の仕事も増えてきます。ほぼボランティア活動でやっているようなものですが、個人の庭から北海道全体を花の島にしまおうという発想で、今取り組んでいるのが、「ガーデンアイランド北海道」という活動です。

このように、活動がどんどん幅広くなっているのですが、原点は地域のまちづくりです。そして、

まちづくりをするためには、一人ではなくたくさんの人に動いてもらわなければならないのです。



恵み野の花づくり活動を紹介する筆者

花のまちづくりを進めてきたことで何が良かったかと言うと、子どもからお年寄りまで、みんなが参加できるということです。そして、それもいろいろな人たちがまざり合って、苦しいけれども、何か一つのことをやり遂げるとい目標があれば、それが終わったときには、本当に皆でやり終えたという達成感や喜びが、まちづくりに発展してくるのではないかと思います。

私の活動は、このような花のまちづくりなどを行っているのですが、子どもが小さいころには、PTAの活動として学校に関わってきましたし、町内会では育成部というのを7年ばかり携っていました。やはり地域の活動にも参加して行って、そしていろいろなネットワーク、人のつながりができていったからこそ、いろいろなことが行えてきたし、信頼関係があれば、あなたがやるのなら参加するよと言ってくれる。そのようにして参加してくれた人たちからは、やはりやって良かったということを書いてもらえるようになってくるのですね。

最後に、「ブレインズ種まく私たち」についてご紹介します。2008年版まで、ガーデニングの紹介誌を8冊出しています。

活動としては、オープンガーデンを見に行っ

り、見学ツアーを実施しています。この本の中には、個人宅111軒分のオープンガーデンが掲載されており、たくさんのきれいな庭が紹介されています。今までは、花を通じて町内に増えた友達が、今度は北海道全域に友達が増えました。毎年、北国のガーデナーズ交流会というのをシーズンオフの10月に行っているのですが、このときにも、全道各地から、50～60人の方々が、函館や根室、釧路、十勝など、本当に道内各地から人が集まって来てくれるのです。今度は、そういうことでネットワークが広がってきております。

それともう一つ、「ガーデンアイランド北海道」という活動が広がりを見せております。これは、北海道全体を庭園の島にしようという取り組みで、今年(2008年)からスタートしたものです。皆で



ガーデンアイランド北海道2008 公式ガイドブック

すてきなガーデンを巡ってくださという趣旨で、この雑誌の中にも124会場が収められています。札幌駅も花で飾っているのですが、これは私がつくったハンギングなどです。ぜひ、札幌駅に行く機会があればご覧ください、8月いっぱい飾られています。以上で、私の活動報告を終わらせていただきます。

結論として、皆さん、いろいろな趣味がありましたら、その趣味を生かしながら、地域の活動にぜひ参加していただきたいというふうに思います。どうもありがとうございました。